

Sp-2 特別講演

小児感染症と国際貢献—こどもはおとなの希望—

菅波 茂

国連登録NGO AMDA 代表

特定非営利活動法人AMDA(アムダ) 理事長

AMDAは1984年に設立され22年になりますが、世界に29ヶ国支部がある国連NGOとして、アジア、アフリカそして中南米で保健・医療や貧困対策などの社会開発プロジェクトや紛争による難民や自然災害被災者に対する人道支援活動を実施しています。AMDAは平和を「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況である。阻害する要因として戦争、災害そして貧困がある」と定義しています。今日の家族の生活とは食べられて健康であること、明日の家族の希望とは子どもに教育を受けさせることです。即ち、子どもは大人の希望です。

私自身が発展途上国の子どもにとって厳しい現状を初めて認識したのは、1972年にミャンマーとタイの国境地帯にあるモン族の開拓農場で寄生虫検査を実施した時でした。ほとんどの子ども達が回虫や鉤虫などによる2重・3重感染をしていました。これがAMDAの源流となった岡山大学医学部クワイ河医学踏査隊でした。

戦争、災害そして貧困のひずみは子ども達に影響を及ぼしていました。紛争地にある難民キャンプ、災害被災地そして貧困地域における生活そのものが子ども達には厳しい現実で、その解決に衛生教育や健康教育は不可欠でした。知識と良き習慣が子供たちの命を救い健康を推進しました。子ども達に医師として看護師として医療を提供するためには解決しなければいけない問題も多くありました。

「命は地球よりも重たい」は日本の神話です。国際社会では「命はお金で買える」現実があります。世界の子ども達の命を救いたい日本の多くの方々からの善意と、その善意を待っている子ども達をつなぐシステムづくりがAMDAの22年間の歴史だったかもしれません。そのシステムのキーワードはローカルイニシアチブです。「現地の問題を一番良く知っている者が一番に良い答えを持っている」です。その中核はAMDA支部と協定を結んでいる各国の医科大学です。今年7月には国連経済社会理事会総合協議資格が認められました。国際赤十字委員会と同じ資格です。国際社会にAMDAの平和の定義を実現するために積極的に政策提言を発信するつもりです。

本日はAMDAの経験してきた子ども達に対する取組みを紹介申し上げることにより諸先生方の参考になればこれに勝る喜びはありません。

最後に、今回のような貴重な機会を与えていただいた第38回日本小児感染症学会会長の脇口宏高知医科大学小児科教授にあらためて感謝申し上げます。